

月平均 500mb 天気図. 1990年 6月

(破線は平年からの偏差. 単位m)

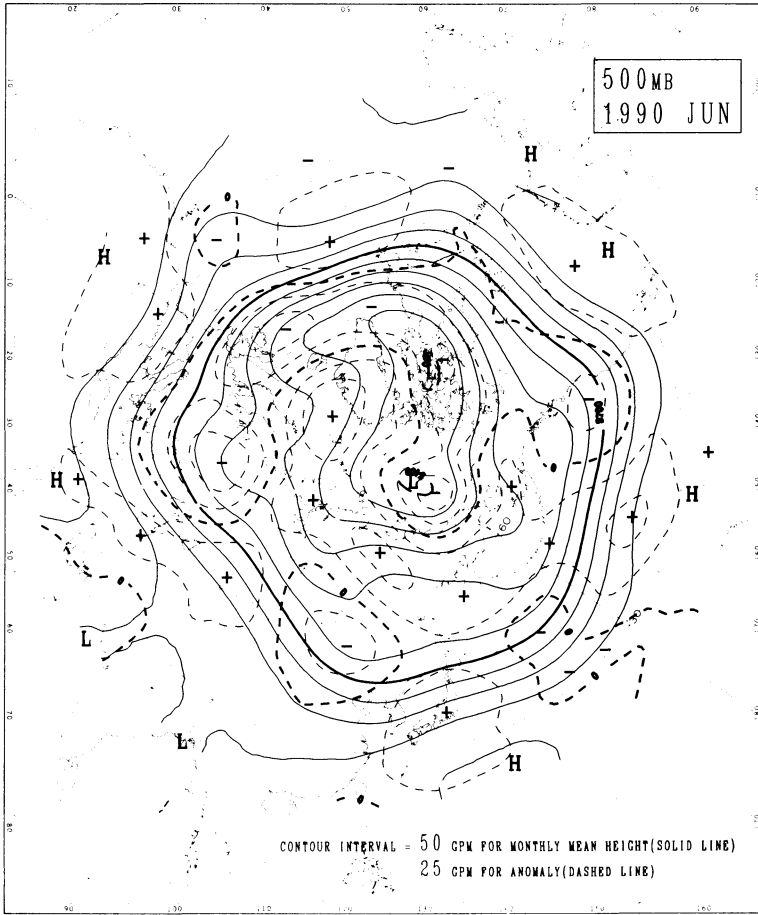


表1 平成2年 6月の気候表

地点名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 ミリ	比率 %	降水 階級	地点名	気温 ℃	偏差 ℃	DT/SD	降水量 ミリ	比率 %	降水 階級
パリ	15.6	-0.8	-0.7	62	110	4	カサブランカ	20.5	0.2	0.3	0	0	1
ベルリン	17.0	-0.6	-0.5	164	215	5	ニオロドサヘル	—	—	—	—	—	—
ローマ	—	—	—	—	—	—	プレトリア	12.3	1.7	1.3	0	0	2
イスタンブール	20.9	0.0	0.0	35	170	3	バンクーバー	15.3	0.3	0.3	110	243	5
モスクワ	14.5	-2.3	-1.3	60	88	—	ニューオリンズ	28.1	1.0	0.9	26	20	1
オデッサ	19.0	-0.4	-0.3	53	125	3	セントルイス	25.1	1.3	0.8	77	81	3
ニューデリー	34.3	0.5	0.4	71	125	4	サンフランシスコ	16.9	1.0	1.0	0	0	2
カルカッタ	30.3	0.0	0.0	282	108	4	ニューヨーク	22.4	0.7	0.6	54	67	2
ボンベイ	28.6	-0.4	-0.8	1185	203	6	マナウス	—	—	—	—	—	—
ホンコン	27.9	0.2	0.3	448	104	4	リオデジャネイロ	—	—	—	—	—	—
チャンチュン	20.3	0.3	0.3	67	74	2	ロサリオ	8.7	-1.7	-0.9	0	0	0
ベキン	24.8	0.6	0.5	4	5	0	ホノルル	26.7	1.0	1.3	2	13	2
シャンハイ	25.4	2.1	2.6	175	110	3	タヒチ	25.6	0.8	1.6	45	73	3
バンコク	29.9	0.8	1.6	59	37	—	ダーウィン	25.3	0.0	0.0	1	48	4
マニラ	27.9	-0.5	-0.8	361	145	4	キャンベラ	6.3	-0.2	-0.2	18	47	2

6月の世界の天候

① 東アジア東部の高温

500 mb 高度の正偏差に対応して、シベリア東岸から日本、中国南東部にかけて気温が高かった。梅雨前線の活動は活発とはいえ、日本、中国南東部では少雨傾向であったが、九州や中国湖南省では短期間に多量の雨が降り大きな被害がでた。

② 中央アジアの高温

中央アジアからウラルにかけてはタシケントで月平均気温 28.1°C (同偏差 $+3.1^{\circ}\text{C}$) など気温が高く、農作物が影響を受けている。

③ アフリカ北部・西部の高温

アフリカ西部から北部にかけて最西部を除いて広い範囲で気温が高かった。ニジェールのニアメーでは 32.5°C ($+1.4^{\circ}\text{C}$) であった。雨期に入ったサヘル地方では平年よりも雨の少ない状態が続いている。

④ アメリカ合衆国北東部・カナダ南東部の多雨

五大湖付近から北部平原では下旬に雷雨、ひょう、竜巻などが発生し、一部地域では洪水が発生した。ミネソタ州ミネアポリスでは月降水量 249 mm (平年の 2.3 倍) であった。

⑤ 北アメリカ南部・カリブ海の高温

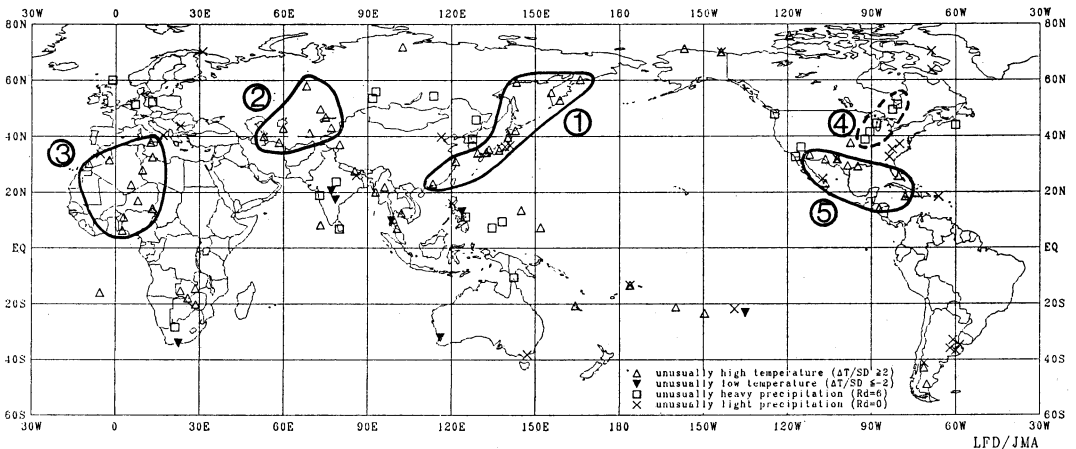
合衆国南西部からメキシコ北部にかけて下旬に記録的な熱波が襲い、フェニックスでは27日に日最高気温 50.0°C を記録、山火事 (一説では放火) も発生し大きなニュースになった。合衆国南部でも高温少雨が続けていたが、下旬には雷雨が発生して雨が降った。

アジアのモンスーンはタイ、インド南東部で降水量がかなり平年より少なかったが、インド中部やネパールなどの北よりの地域では平年並あるいは多雨傾向であった。フィリピンでは2つめの台風が直撃し、数十の死者と数万の家が流された。台湾でも台風の被害が大きかった。

ヨーロッパでは中部で雨が多く、パリでセヌ川が増水し溢れ出すというニュースが伝えられた。

南米ではアルゼンチン北部からウルグアイにかけて降水量がかなり少なかった。収穫作業には良いものの、小麦の植えつけに必要な土壌水分が不足している。また、パラグアイでは平年の2倍近い降水量であった。

(気象庁長期予報課・宮崎保彦)



1990年6月の世界の異常天候分布図

図中の番号は、本文中の番号と対応している。

△：高温 ▲：低温

□：多雨 ×：少雨

1990年6月の気候表の説明。平均値は1951～1980年のデータに基づくもの。降水階級は五分位値で、0は最小値より小さい場合、6は最大値より大きい場合。